

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 24-006

PDCA	事務事業名	景観形成推進事業	部課等名	建設部都市計画課 都市計画担当	担当	石川		
					内線等	447		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち						
		節： 第3節 うるおい空間の形成						
		基本施策： 2. 景観形成						
		単位施策： (2) 景観形成重点地区の整備						
		個別施策： ①景観整備の推進						
	根拠法令等	—						
	対象・目的	景観形成重点地区内における景観形成推進のため、景観整備工事と景観形成に寄与する建築物等への助成を行う。						
	目的を達成するための手段・活動内容	良好な景観形成を図るため、岩滑地区の矢勝川に架かる岩滑西橋の高欄の高質化を行うと共に、景観形成重点地区内の建築物等の景観形成工事への助成を行う。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		28年度	29年度	30年度	単位	
		①ふるさと景観づくり推進事業補助実施件数		13	3	10	件	
		②						
		③						
		事業費		13,259	3,600	17,978	千円	
		人件費		1,906	2,221	7,495	千円	
		総事業費		15,165	5,821	25,473	千円	
		活動単位当たりのコスト		28年度	29年度	30年度	単位	
	①補助実施1件あたりのコスト		1,167	1,940	2,547	千円		
	②							
	③							
	成 果	成果指標		28年度	29年度	30年度	単位	
		①ふるさと景観づくり推進事業補助実施件数	実績値	13	3	10	件	
			目標値	3	3	17		
②橋梁高欄の高質化延長		実績値	—	—	22	m		
		目標値	—	—	22			
		実績値						
		目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある			
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—		
	事業の評価・課題	C						
		景観形成推進のための補助金による助成を、半田運河周辺地区で1件、岩滑地区で3件、亀崎地区で6件実施した。想定していた案件が未実施となったため、目標値を下回る結果となったが、実施件数としては前年度より7件増となった。また、良好な景観形成推進のため、矢勝川に架かる岩滑西橋の高欄の整備を実施するとともに、同地区の景観づくり推進事業補助金の活用を促すため、戸別訪問によるPR活動を行った。						
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持					
			良好な景観が形成されることは、来訪者の増加にもつながるため、今後も景観づくり推進事業の補助制度について、戸別訪問によるPR活動などにより周知を図る。					
		令和元年度の目標	成果指標			目標値	単位	
			①ふるさと景観づくり推進事業補助実施件数			目標値	1 件	
			目標値					
			目標値					